

茶道筌蹄

五

79  
1408  
5



門 7多9  
號 1408  
卷 5止

茶道茶室蹄卷之五

目錄

茶碗

天目臺

茶抄

速水

食器

菓子器

煙草盆

同小道具

燈燭具

○茶道茶室蹄卷之五目錄

執行  
藏書

聚樂燒歷代  
集雜

茶道笠蹄卷之五

○茶碗之部

天目類

建安縣天目山  
燒一物取天目と云

曜變

星の如く散らるる天目の中を曜變と云

肌皮盃

龍甲の中より出たるを膚と云梅龍の撞取

或る文字をとり

油滴

茶滴り茶の垢よるる故に名づく

灰被

アケラをいふを灰被と見ゆるなり

煎汁

煎汁と名づく中よりとるなり

烏盃

色の黒く出外なり

糸

ノギ筋のまをとり

○茶道笠蹄卷之五



黄 茶濁りの端又黄色なり

建盞 建安縣の盞といふ事なりいづれのよも付

と建盞と名づく

瀬戸 瀬戸に其天目と字しき物なり

○青磁之類

雲母 青磁の中をみても古く引本鞆に云々と

物世よ名づく

珠光 珠光所持二井傳朱なり何きも是に似たり

をふ物と云なり

人歌子 人歌子と云も人歌子と云

饒州 茶碗の縁又サハリフクリとの入事とも云り東山殿

時代甚重寶しき物なり天目よ次々

○漆付之類

古漆付 利休紀二井の香炉と茶碗又用也

具外雲堂 松竹梅 唐花竹も古漆付なり

○虫喰

○祥瑞

○吳洲

○赤磁

○古赤磁

○金漆

○宋胡録 八千ノ子と云なり

○安南

○紅毛

○井戸

井戸は使物と所持の類と云井戸を云と見ざる  
と上品と一熊川を上品と見ざると上品と云

小井戸

大井戸

小ウハ二ウ

大井戸

名物子

○熊川

コモガハ 朝鮮の地名なり

真熊川

河洞道

是も朝鮮の地名  
熊川中の上流なり

鬼熊川

流熊川

○二島

礼賓子

礼賓子 歌二島

花二島

古三島

○刷毛目

古刷毛目

塚渥

古中より堀出しし物なり

朝鮮刷毛目

箱刷毛目

古く至る濃き刷毛目なり

粉吹

古地刷毛目なり

○高麗

紹臨西村の路巾を  
以て名物なり

割高臺

絵高臺

望子

本子

長崎

長崎某の伝持あり長崎と遠州との書付あり

孤蓬庵より雲州度へ伝持あり

雨漏

玉子子

鉢子

金海

朝鮮の地名あり

御所丸

織部清本より書付あり

御所丸よりと書

○五器

紅葉

遊撃

遊撃將軍沈惟敬の筆洗ありけり

大徳寺

錐

番通

尼

粉の蒂

高尾粉の蒂と似たり汁く屋と似たりの物

一版古し

汁く屋

螺汁く屋へ舶来したる物あり

伊羅保

元伯銘樊噲といふけり道正庵伝持

古イラボ

刷毛目イラボ 釘堀 黄イラボ

ツバ 井戸のツバと云ふあり

判事

船中印章と掌する人の役名之は人の持渡り

ハタツリ

御本判度

モサコ人の名

御本

遠州時代日本より運入りしと

解春

○和物類

○瀬戸

伯庵

伊勢津の匠師谷伯庵所持しりし由伝庵

と云流産御必藏より半月番甚く飛茶

莫瀬戸

瀬戸魚

織部

織部墨

○唐津

真之羅

言路人ありて唐津を焼く故に麗の方

より莫と云とあり

瀬戸唐津

唐津の瀬戸より成り

○萩 長門

言路人ありて焼初ると云

松本

地名茶の質堅し

深川

茶の質細しあり松本深川とも萩焼なり

○伊賀

○備前

○薩摩

右三本も遠州時代より茶盤と焼始ると云

○仁清

○清水 古清水より

○樂燒 代々

○子造類

○天目墨之類

○唐物

尼ヶ寄墨 黒塗石付の内は業の字にり尼ヶ寄の

町家某は持より

数墨 数七の舶来は皆名物なり内朱外墨サハリ縁

輪蓋 縁の形墨より似きる故より

青貝利 墨の類に似たり

堆朱

和物類

千字 利休は持唐物黒塗千の字にり子家は持より

本地 利休は持より

濁塗 利休は持より

一閑 元伯好千の字乃写し

○樂長二郎七品の茶盃

東陽坊 大黒 小黒 け三品より

臨海 子舟 本守 持授 け四品ハ赤之

右七種の名物と云宗易より長二郎は命しを造り

しむ但し長二郎中義より入る石茶と云め持造り

云より



○陶寶文七品

唐の陸羽建安より  
あれと取め宝文と云

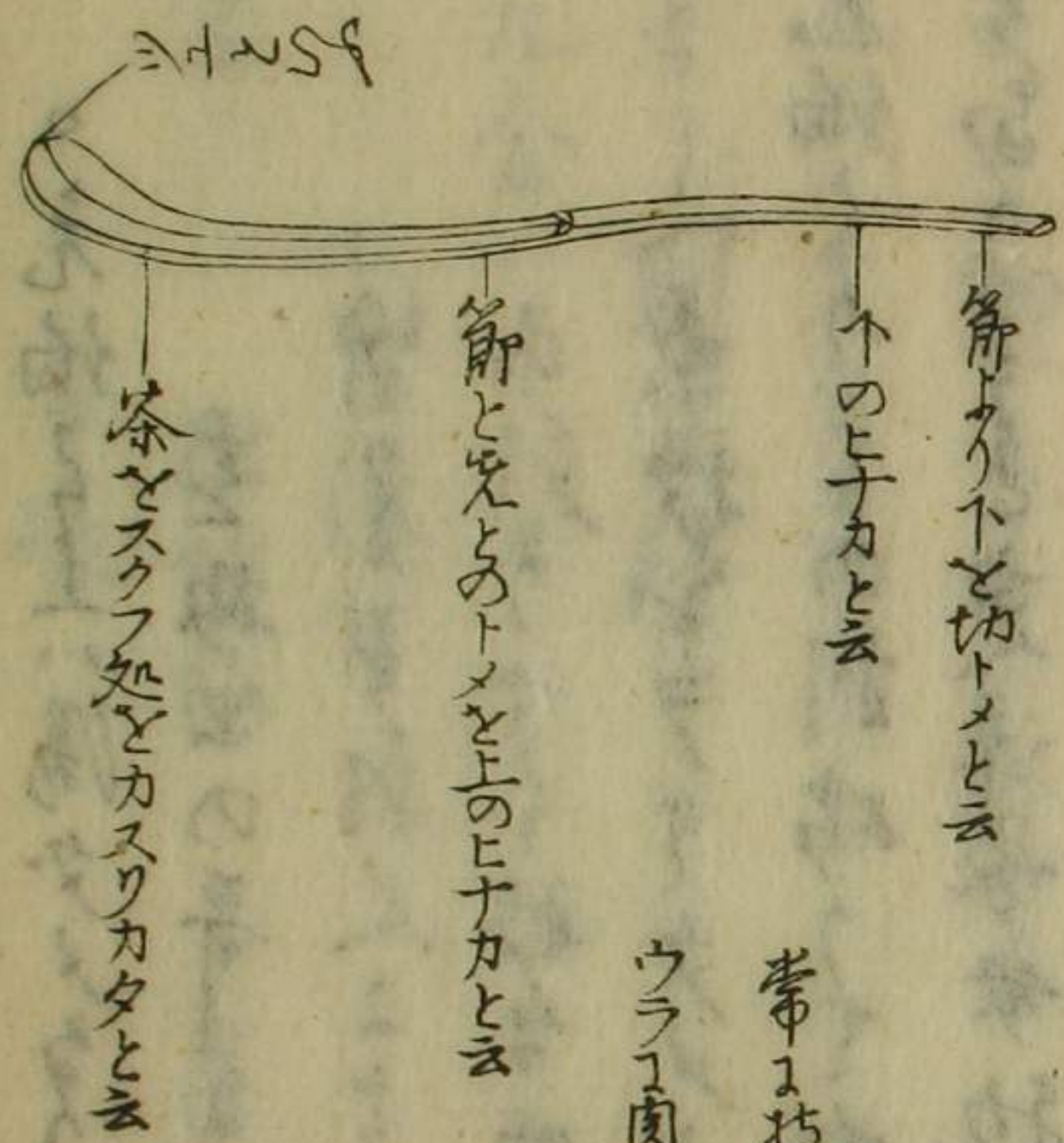
- 建盞
- 曜変
- 灰被
- 注瀉
- 黄盞

- 玳皮盞
- 烏盞

○茶抄之辨

象牙 元來唐物イモ茶抄をて成字一をさるあり  
 珠徳形 珠光門人南朝の僧徒あり珠徳形をイモ茶  
 抄のイモととりて銘あり支田人ヲツトリ太くしを  
 額一大小有り今をハ小の方と通一用也  
 利休形 大小 今をさる小の方と通一用也  
 塗茶抄 いま一は象牙得てはかり坂陀人の髹甲又  
 ち角と塗用也黒塗ハ利休形満塗ハ紹臨一宋張ハ元均之

葉 利休形ハ象牙と形同南竹作ハ葉を竹の通に削る  
 節あり 竹茶抄の美削り 珠光より始り珠徳宗栖  
 羽洲宗平 け人二代有り竹もも皆節ありの茶抄ハ削り  
 紹臨をキリ留サカリ節と削り利休の中は節有り之



○茶道筌蹄卷之五

○元伯より六湯次メるなり元伯以後を火次メるなり  
壺物公の弁一よ

ゆづりを煎人よする時をゆづり

おれろすくお台作れん

いづしへ茶抄とヲリタメと云々かあり流竹の夏に  
元伯より子の刺始りてぬれ并よと云々茶抄と云  
とありて是より啐啄妙初を刺味あは紙字は是ハ  
其の目十二半志年よと云々十二目の字刺りる紙  
より刺味あはの本奇き山中氏は持るなり  
聚楽と云り

○建水 本字受汚

○唐物金類

砂張 平コボシのけいめり

紺羅 砂張のうけり

棒先 右端不分明

合子 物と云り合合なり 

骨吐 文字のごとく

粹子 則洪粹のりり

モウル金

○古染付

雲堂 松竹梅 唐花

○古磁

雍瓦ノ蓋

○南蛮物

ノ切

内濃業

○朝鮮

○急物

○薙拔

○安南

○同和物之類

○瀬戸

大脇指

利休所持美濃戸之

紀州河所産

サシカへ

利休所持捨賣り

加州河所産

○備前

○信樂

○伊賀

○丹波

○金物

○曲物

○食器之類

付菓子蓋

利休書をハコトクニ朱漆を塗り利休

茶椀と用也朱も兼用

黒塗丸椀

坪平付大小とも利休

黒塗上り子

利休形坪外蓋又内フタも坪平内

蓋有り



子盆 日形 二枚 盃 盃基 日形 二枚 是折菱

黒角切さしびの通りを朱ツハメ

糸目梳 如心好腰高流一壺字用也外の席も

兼用也坪平ハ丸梳一文字梳の内と飯用也

○吸物梳さか

むし形 黒丸梳の形を木地帯

津 仙叟好朱。糸底黒ウル之を原叟好

喰初梳 松竹鶯燕の絵を利体於夕顔を原叟好

夕顔梳 仙叟好ハタツリ夕顔の絵

細ノ絵 小を原叟好。喰初梳於ハタツリ好

ハタツリ 原叟好ウル之煮物梳又かり用也

菓子梳 朱黒ツハメ利体於煮物梳又かり用也

○折菱さか

角さしび 元未利体於の湯を盃より箸用也

仙叟より始り依り曲折菱と湯を盃よりしるも

然るべし

撕目 利体於濁角切カシ目り

曲 利体於濁角さし

朱 利体於黒ツハメ角さし

山折菱 花縁化よりしを利体於よりカシメ内

椀皮の下にシメりり例涼くしを歩合せり

吉野折菱 根未化より鏡を黒ハタツリ朱く裏を

去聲 倅 喉 故 たり 吉 野 折 後 と 呼 ぶ 吉 野 梳 たり  
合 流 子 家 又 本 哥 たり

才 月 折 後 如 心 故 好 一 宗 化 思 久 儿 之 足 系 目 梳 二  
と り 河 次

山 寄 益 織 部 好 漏 塗 繡 目 裏 思 於 丸

○ 食 次

朱 塗 思 塗 朱 子 付 思 子 付 竹 子 利 休 於 一

細 の 弦 原 叟 好 子 一 抄 子 朱 塗

○ 抄 子

朱 塗 八 思 の 食 次 二 用 以 朱 子 朱 の 食 次  
用 也 思 の 子 付 二 八 於 長 二 用 也 全 子 朱

○ 盆 の 子 付 食 次 二 流 二 在 火 色 あり

○ 湯 次

思 塗 湯 の 子 ス ク ヒ とも 利 休 於 あり 又 全 乃  
湯 の 子 ス ク ヒ たり 全 の 湯 次 二 流 二 目 下  
初 平 抄 子 細 の 弦 朱 の 湯 の 子 ス ク ヒ あり

○ 月 唐 金

金 抄 子 流 二 利 休 於 元 廿 八 日 字 二 を 録 家 二  
銅 提 といひ 酒 次 あり

○ 酒 次 二 分

塗 利 休 於 内 思 外 漏 梳 本 地  
錫 利 休 於 流 利 あり

銚子鍋 いし一疊火よ製カカシカととる茶のしと織部

より席上又用也

同丸 角 丸も角も利休形又リ蓋

同糸目 原叟好道茶師此蓋二通り共蓋柄カラヤ

石賢子チヨウロキツマニ子座子流付宗入黒石賢子振鉄世

地ツマニ同格あり

同平 啐啄好蓋子糸銅

同累坐 啐啄好蓋又リ蓋後より好と鉄フタ

と流也

同塗 利休形丸鍋カの通り鉄の上と黒塗カは

○ 盃カ之分

織部梳の蓋を酒と呑まると利休より

銘く盃 利休形朱塗あり

萩の絵 原叟好大小二つ糸朱刷毛目と黒漆を

萩の絵 原叟好朱二つ糸朱裏又黒漆を執と之く

飛石

原叟海船屋善次方を黒目を飛石とわ

一紙今と字一朱朱の一枚盃あり

○ 盃カ之分

黒 朱 利休形黒ハ不皿より乃糸編より朱あり

樂燒金洞 啐啄好

朱細絃 前より

○八寸臺

杓の木地 利休形

松の木地 仙叟好

漏入子 大小 原叟好

○重箱

漏 利休形 桐木地 漏塗 二重 又同形 黒塗 一好

定より

細 原叟好 二重 細の絃の椀 漆

○食籠

八角 丸 元伯好 一宗張 二つとも内朱 外黒 八角ハ

無子有り

朱 三重 一宗張 琉球 拍子 外朱 内黒 鏡 漆面

黄漆有り

細 原叟好 細絃の椀 漆

青貝 唐物有り

堆朱 唐物有り

○通盆

黒 利休形 丸

一閑張 元伯好有り

杓の木地 利休形 鏡へギ目

○湯盆



黒角之漆 刺体形

酒 長角力二十目皮トシ墨付墨仙叟好

一宗張 長角濁塗墨付墨原叟好

墨丸 元伯好今子家又用也 一書ハ不用と云

○ 菓子盆之部

縁高 墨又リ刺体形。一宗張元伯好

三ツキ 朱又リ刺体形。朱ヲ墨是之ノ凡ハ原叟

好。濁ヲ墨原叟好。一ツリ余程小ブリ有ハ半庵

宗也好有り

一閑張 墨ハ如ハ好角濁塗墨付墨ハ原叟好

雜器 ナデ角墨如ハ好有り

○ 物菓子盆

一宗四方 ヘギ目ハ墨元伯好ヘギ目有ハ宗全好

砂張盆 南蛮 朝鮮

三足盆 刺体形朱墨付墨

八角盆 朱塗墨ツハメハ好元朱ハ唐物字之

字の弦硯蓋 桐木地錫縁字の弦花之胡粉紫紅

墨又リ宗全好

八角字の弦 桐木地全粉之字の弦錫ヘリ有り

了く好

○ 煙草盆之部

○ 塗物類

鯨子 如心好 漆塗

コリ蓋 縁濁塗 底鏡 漆塗 原叟好

糸巻 真黒塗 糸巻スカシ 瓜紅 如心好

三ッ入 桐木地 漆塗 合元伯好

舟形 竹葉蓋の漆 漆塗 如心好 漆塗 宗全好

○木地類

鯨子 糸の木地 付如心好

ツブ足 糸の木地 如心好

半庵好 糸入長角 糸も共木 唐子のスカシ

竹葉蓋 原叟好 漆塗の通り 糸木地

骨く好 中腰トマリ けス板又火入 灰吹切込

下へ煙子入とつらり 糸の木地

糸巻 如心好 漆塗又りの通り 漆塗

○一閑張之類

木瓦 元伯好 一閑張 付

釣瓶 元伯好 大小 今用 大の方

竹葉蓋 原叟好 漆塗の通り 一閑張

三ッ入 一閑張 竹の折 竹の折

宗全好

ツブ足 如心好 一閑張

○月小道具類

○火入之類 元木 漆塗 如心好

○ 香磁

○ 法付物

○ 急物類

○ 金類

○ 國燒

樂燒之類

累生

如心好燒夕ハニ又香炉茶も何

三ッ足

啐吸好香炉茶も何

八卦

了々好善又郎他八卦金入

○ 煙草入

夕トウ紙

古米より用ひ歩紙

挽物

如心好エレシエ櫻木地

一閑ヲリタメ

宗全好も

業

如心好長角シヤリ蓋内室へ好々巻以より

樂燒

宗全好長角ヲトシ蓋上ニツマニ何の香炉茶

初李蓋ニ合以

椰子シラ

如心好力キ合のニツ入ニ好む

○ 煙管

扇屋形

唐より渡りしもの形式字以

筋

如心好始て好む

書院

了々好扇屋より太

○ 灰吹

青竹 茶舎に用也

白竹 常々用也 亦作とも元伯好有り

○小穴著 元ハ香著と用ひし有り

黄玉

真鍮

砂張

茶柄

子家としてハ茶柄と用ひし

○燈燭

短タケ 致ケイ

夫若完 亦指とも利休形 夫若完居士の内室宗

恩の好有りしとぞ二尊を基目として用也 亦基目切

口を中切有り 亦の能蓋火皿長燈の如き短致も限

竹葉

利休形 地板板 亦焼油蓋 二尊を基目として用也

○仙叟好ハ切明の所長 亦外ハ利休形の通り有り

長嘯子の奇也

亦久記日も中 吳林此とりの火色

世々のそとを法さるゝをとも

木燈臺

利休形 檜子 桐柱 松木 基を松二枚と組

油蓋用ひても有り 亦

茶燈臺

宗全好 檜子 桐柱 松木 亦焼を茶クスリ

茶の好有り

同原叟好

坐アメ茶宗全好よりとるく茶の教あり

茶全入有り

結燈臺 加茂神前より成ぬる新かり用也但し一  
 寸巾の美濃布とコヨリをよ上より二寸み下  
 までみせマムスビ二本を茶けり火皿とくくは  
 油盞も上よりくくはむる竹を皮付と用也  
 ○但し一室を中と用也  
 坐敷の燈 利休形松の木地竹の子火皿の上へ竹乃  
 輪と動の油盞と置く燈の糸の湯よるかるくは  
 けの燈と用也  
 露地の燈 利休形松の木地土芸茶又り覆さぬ又り  
 火皿よホウツキを一枚の油盞と置く風よる夜を  
 覆とくはるり

半月の燈 如く新好大小のり大なるは五寸小は三寸の  
 度候よりして二品とけり用也  
 竹の燈 啐啄新好大土臺ト子松のすり漆子家をは  
 とくは紙のりき燈の二寸  
 魚燈臺 元伯好竹油盞と用也  
 月相 利休形二枚土芸水盞の場と用也  
 子燭 利休形洞土芸塗  
 小燈 香磁 瀬戸 樂焼 啐啄新好 香炉クスリ 小坐敷席中  
 小燈と用い度間と座中の子燭と用也  
 金入小燈 くるく新好香入郎作  
 子燭臺 原豊好柱ケヤキ燭子相茶タニハシ金入

○ 小道具

油盞 履繫露地付きも利休形

土釜 新焼水釜魚燈臺付きも利休形。燈籠はくく紋好

大皿 履繫利休形。新焼碎啄紋好唐炉紫力キ色

カキタテ 月を四目垣の控板

撫立 黒毛じり席中、控を庭中にも用也付きも利休形

油次 利休形黒塗るり

木燧籠 利休形茶障子後二日月右四角左半月

石燧籠 利休形其餘古きと賞玩以

八角燧籠 利休形元来を 禁中にも用ひられしと

かり用也控を書張八方の飾り

金燧籠 利休形と用也鉄等水の控板又利休形

燈クズしりり其餘古きと用也

○ 樂燒歴代

元祖館也 朝鮮人なり或説はアメヤを朝鮮の地名

を大永の以日本へ渡り後よ弥吉と云長二郎を

四代りりといふ

尾燒 日本人法名貞棟と云館也の妻なり

初代長二郎 館也の子なりといふ利休千氏は後と

旧姓田中と長二郎へを以てなり今も田中と氏と改文

禄元年壬辰九月七日没以初年不詳

二代吉左衛門 長二郎の子なり豊太閣聚樂院造營



十。一統は長二郎能入長左衛門を孝子とて若左衛門と  
 して元祖始也是とる遠くわのこカウらり腫小活はは  
 ノこカウの弟子道来と云らり信左衛門と云放蕩  
 して及兄の勅を文と浪花或る左海と云云  
 定めは任せしと其用ふ所の中左文字なり又一入  
 の真子と云流法は一元と云らり是も改を此昭と  
 名を著しは其子流法一向と云子世は其子流法は  
 故と云流法の家を任土故を後と云又宗味と云らり  
 是ハ素人焼なり 正保四年丁亥 二月八日没 其餘素人焼は光悦室中  
 乾山と竹也も亦焼らり千家と云子造らり  
 始なり其後諸家宗通方なり子造出来は

○集籙

茶箱 桐と云地大小とも利休形  
 茶籠 茶籠 大とも利休形 小とも宗全好  
 一閑張茶籠 外漏内蓋大小とも原隻好 小の方ニ断  
 目一は是を呼喚好  
 相唐戸西茶籠 了れ好  
 腰提 呼喚好 漏スリ漆ケヤキ木地提物袋入腰  
 提ふ竹の茶抄筒漆  
 茶筥筒 竹を底紫檀と入り利休形なり 木の曲物  
 上のしり起きとも利休形なり  
 茶巾筒 竹を利休形。漆付類もよう



見臺

粟本池利休好有り

脇息

粟本を足又牡丹の歌物有り利休好

衣櫛

利休好粟本を裾より子に梅の歌物有り子に梅

風炉先ラシシヤウの鑑籠シヤウ有り

風炉先屏風

利休好白張墨塗縁有り子紙炉風

呂とも通用

同金張付

利休好の通りを金張付の通りを

如く好又仙鶴舟引の画有りも如く好有り

同長序

仙叟好白竹押一枚縁利休好有り一寸低

同粟捨梅

如く好有り

同葎

如く好有り

同乳桐

了く好有り

同細代腰

了く好有り

六枚屏風

利休好白張墨塗縁。金沙子有り

了く好有り

同葎

寸法利休好の通りを葎を原叟好

勝子二枚屏風

利休好白張墨塗り縁

同葎

利休好有り

同細代

如く好有り

屏風使琴琴

唐金樂焼とも好有り

置刀盒

利休好粟本二腰有り腰板一枚カシロ印籠カシロ有り

の折釘二本上又茶革の箱有り短刀カシロ有り

同桐糸巻 原叟好有り

書棚 利休は持の字一透棚地袋有り

糸箱 桐玉を古の物を源家より用ふ物有りお傳

書字の紙入有り

掛子算笥 桐之利休形 板ハ元伯好

文箱 焼杉利休形 結蒲黄四ツ步

同一宗片開 呼吸歌好 結糸の袋オサナダ

数計臺 松木地 去慶如ハ歌好 九くく一を是も十

文字有り

○着用類

十徳 利休より古一紹紗シロの類

八徳 原叟より子家より用也 紹綿シロの類

巾 緋之原叟 利休系之呼吸歌。八徳着用

のその用也

既巾 黒孺子毛之裏利休形

足袋 白 蔕玉子 浅黄 緋之如ハ歌好 呼吸歌ハ

糸之の古炉風呂とも用也

糸巻 利休形を全粉雨籠の前縁内全外糸二重

同一開 呼吸歌好 小言張内糸外漏の一重有り

提鞘 利休形 紐花又ハ口ハ小刀を糸切小刀ハ用也

鞘ゴマ竹節 留め紐付 紫草

火步袋 利休形 アヅキ皮紐 利休系 小刀ハ提鞘同

扱高き一枚入底

扇子 利休形十本立地紙銀スナゴ序面は胡粉を  
茶序面は墨画の山水あり

○如心所好き親ホ子波竹上は節あり白紙は布  
目ありあり

香袋 子家隠流所より所持あり

手拭 素金柄坐美輪ウサラカシ下は引出しあり  
内は黄楊の櫛一枚白紙の夕トウ紙は包は古鏡城

前縁の家は入る

桐火鉢 子家所持桐世女形桐のヲトシ金泥り  
鳳凰乃前縁あり通縁の桐火鉢ありを古

好と知進次

テ  
好と知進次  
利休形アコカウ善又郎能乐的瓢箪ハ宗  
入写しあり

炭切取 竹を製成炉風呂二本あり緋帯ありを  
扱ありあり



茶道笠蹄卷之五 大尾

○茶道笠蹄卷之五

此條目湛然先師所錄余就默々齋業師請其  
註證明備師口授面命不遺瑣碎余從聽從記  
閱數月切畢矣遂淨寫以供同社諸子之清賞  
焉想夫茶味之與禪味本來一理水月鏡花無  
色無相然古人有執規矩而為方圓能棄規矩  
而為方圓也是故先哲既執則於後世矣學者  
倘出自斯範圍中而得悟入茶味之三昧所謂  
味外之味可知生乎其間也已

文化丙子之秋 浪華 略庵嚴識



弘化四丁未年

二月出板

### 三都書房

大坂心齋橋半丁南工入  
敦賀屋九兵衛  
同心齋橋通順慶町北入  
柏原屋清右衛門  
同 博勞町角  
河内屋茂兵衛  
同 唐物町  
河内屋太輔  
同 江戸堀壹丁目  
今津屋辰三郎  
京三条通御幸町角  
吉野屋仁兵衛  
江戸日本橋通壹丁目  
須原屋茂兵衛  
同 淺州茅町壹丁目  
須原屋伊八

